

【国際収支表についての補足説明】

国際収支表は 1996 年に I M F 『国際収支提要』第 5 版に基づいて大幅に改訂され、現行のものとなっている。

国際収支の旧形式と現行形式との比較は、以下の表にまとめられている。その大きな相違は、資本取引に関してである。これまで資本取引は、資本収支と金融収支に分けられていた。前者は自発的な取引であり、後者は調整的な取引（自発的な取引によって誘発された取引）であるという区別にしたがっていた。しかし、資本移動が自由化され、活発になってきた今日では、ほとんどすべての資本取引は自発的な取引と考えられる。こうした観点から、外貨準備の変動を除いたすべての対外資本・金融取引の受け取りマイナス支払いを、資本収支としてまとめることになった。

また、それまでは 1 年という期間を基準として、資本取引を短期と長期に分類していたが、実際問題として両者を区別することが困難なため、資本取引を機能別に分類することになった。資本収支には、投資収支とその他資本収支に分類される。このうち、投資収支には、直接投資、証券投資（金融派生商品の取引も含む）、その他の（投資貸付・借入、貿易信用、現預金、雑投資）がある。その他資本収支には、資本移転、著作権、特許権の取得処分などがある。

このような変更に伴って、経常収支と長期資本収支の合計であった基礎収支や、それに短期資本収支を加えた総合収支は廃止された。

旧形式			現行形式		
総合収支	基礎収支	経常収支	貿易収支(輸出-輸入)	経常収支	貿易収支・サービス収支
			サービス収支		所得収支
			移転収支		経常移転収支
		長期資本収支			
		短期資本収支			
金融収支		その他	投資収支	資本収支	投資収支
		外貨準備増減	その他資本収支		その他資本収支
					外貨準備増減